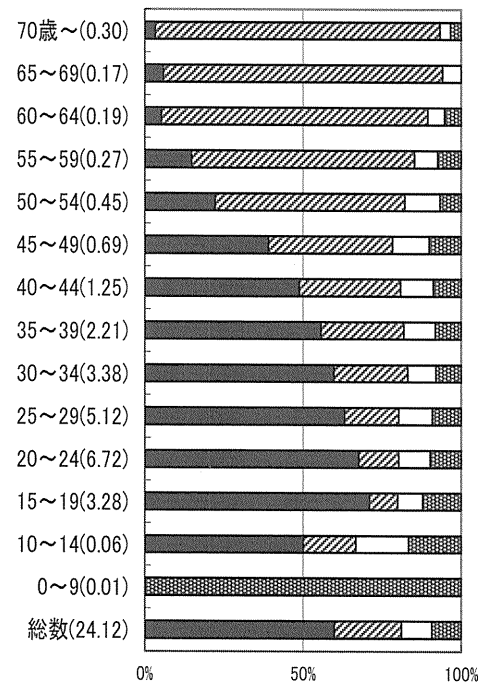
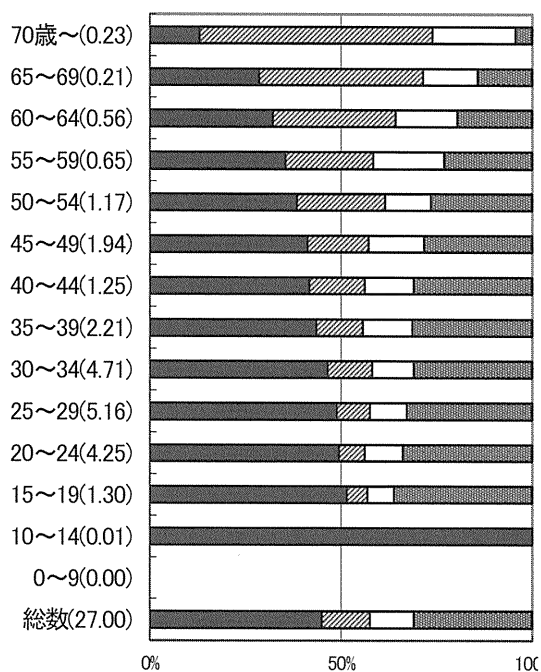


2011 年

男性

女性



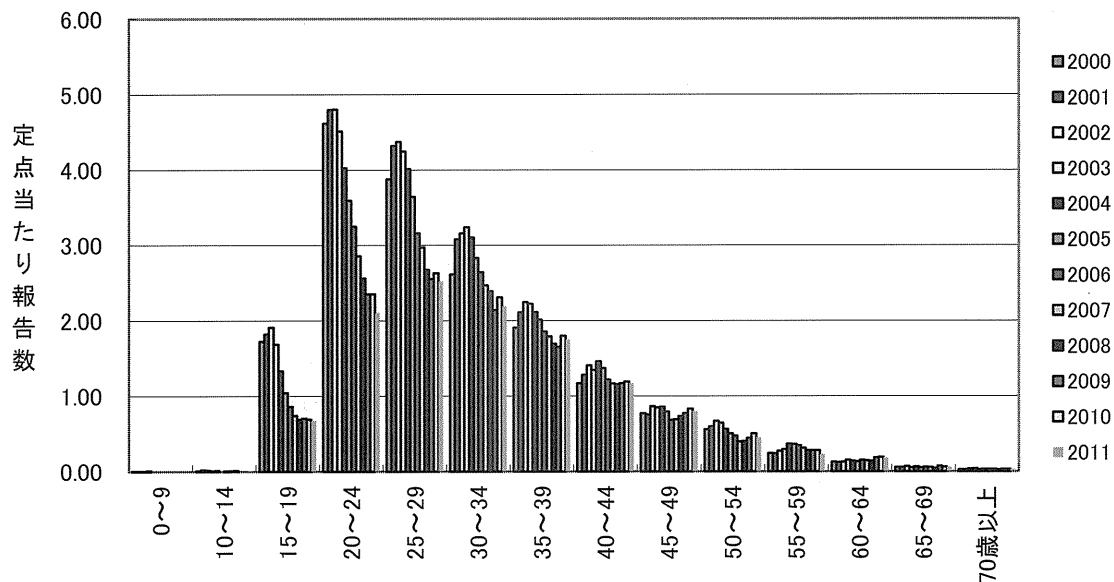
()内は定点当たり報告数

2009年、2010年は2011年1月14日現在、2011年は2012年1月13日現在

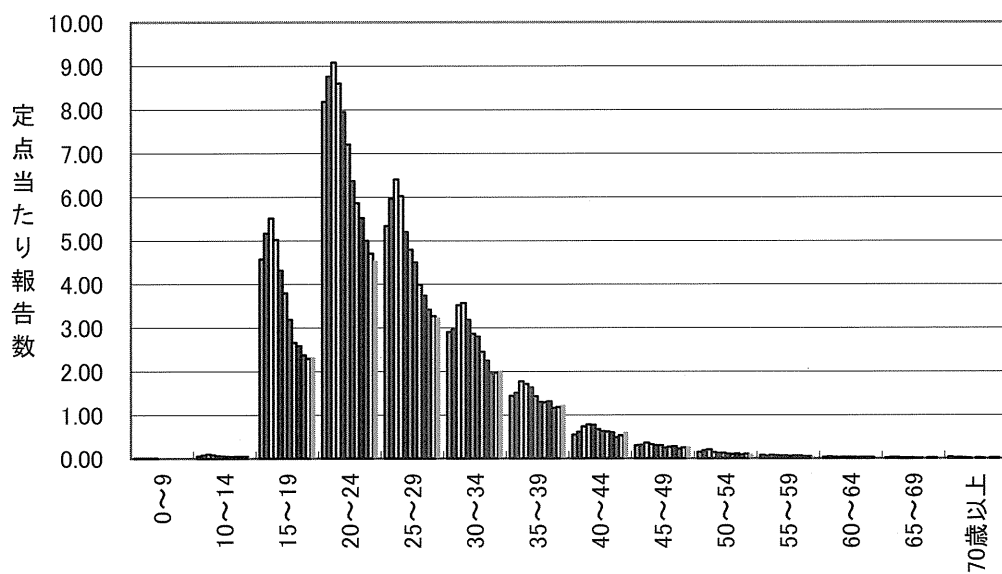
図5. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年齢群別定点当たり報告数の年次推移
(2000～2011年)

性器クラミジア感染症

男性

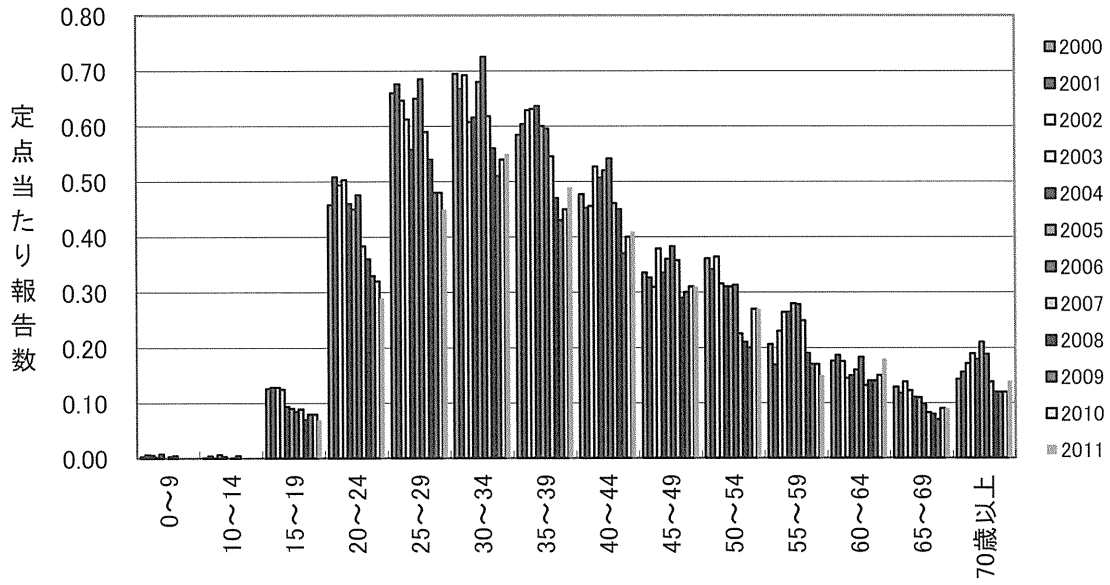


女性

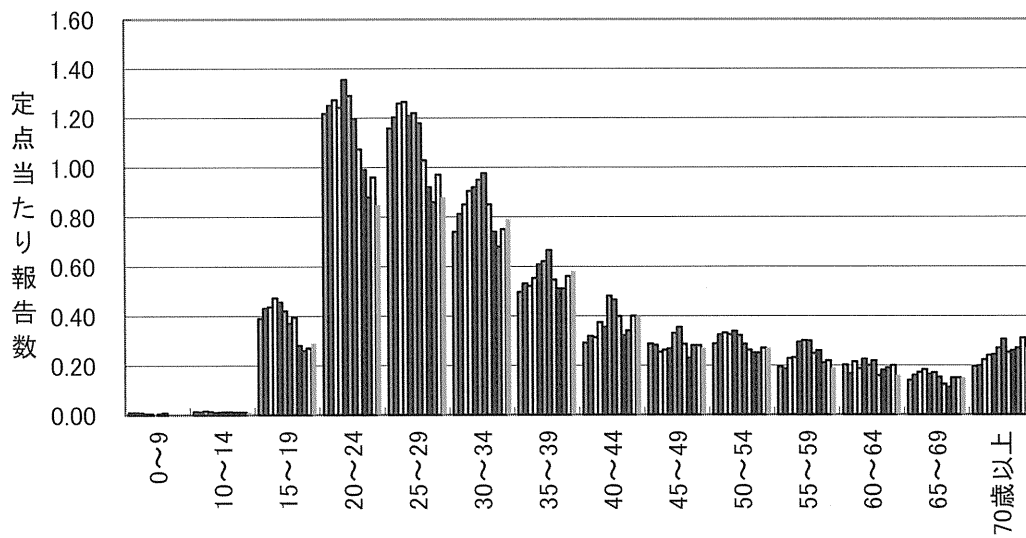


性器ヘルペス

男性

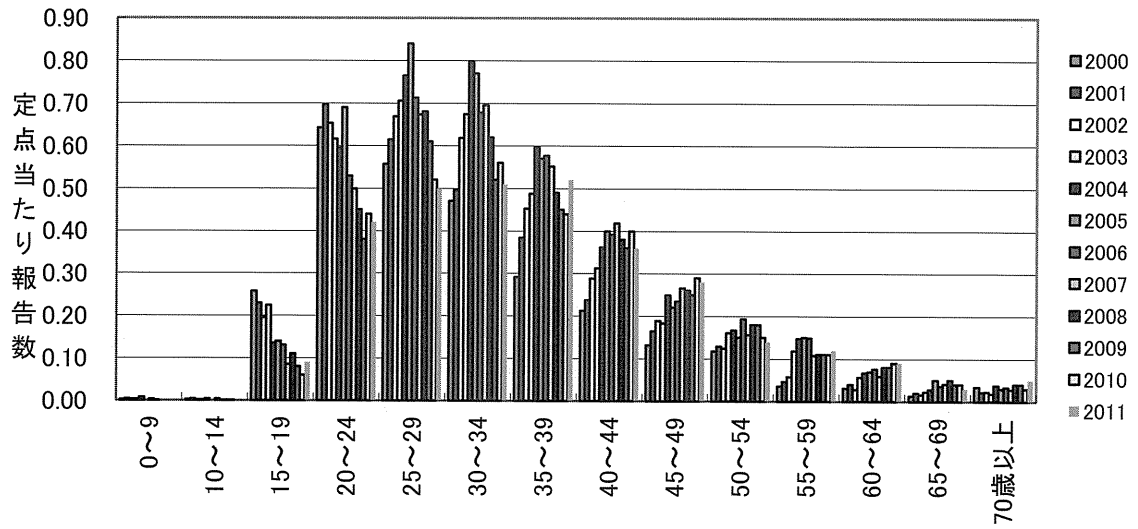


女性

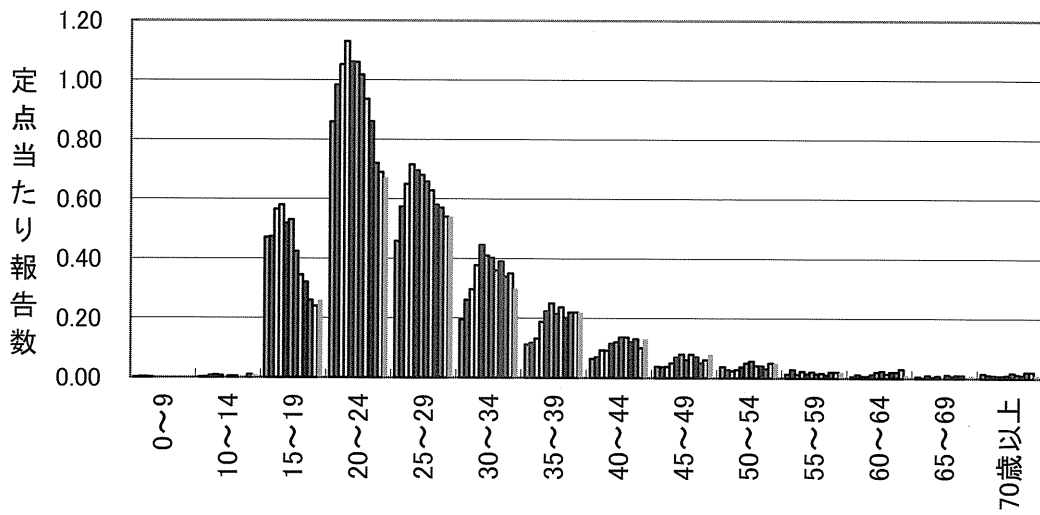


尖形コンジローマ

男性

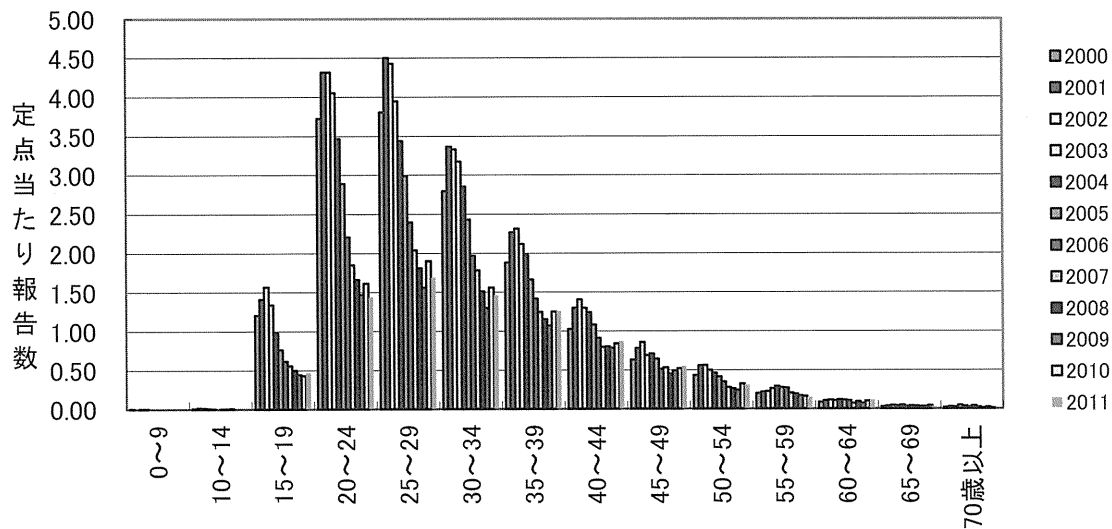


女性

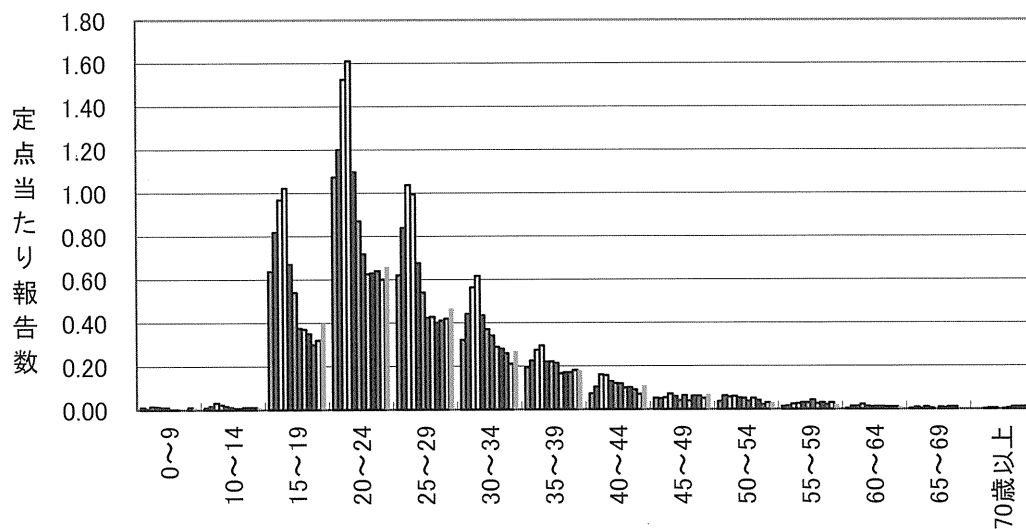


淋菌感染症

男性



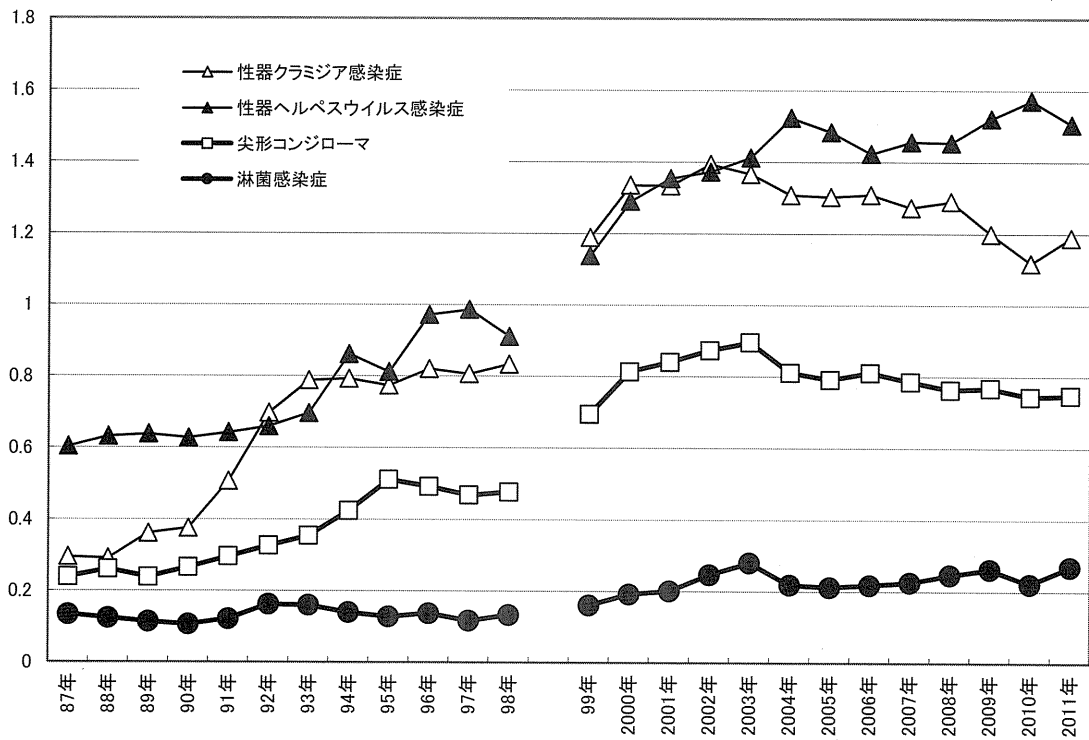
女性



2012年1月13日現在

図6. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の男女比の年次推移(1987～2011年)

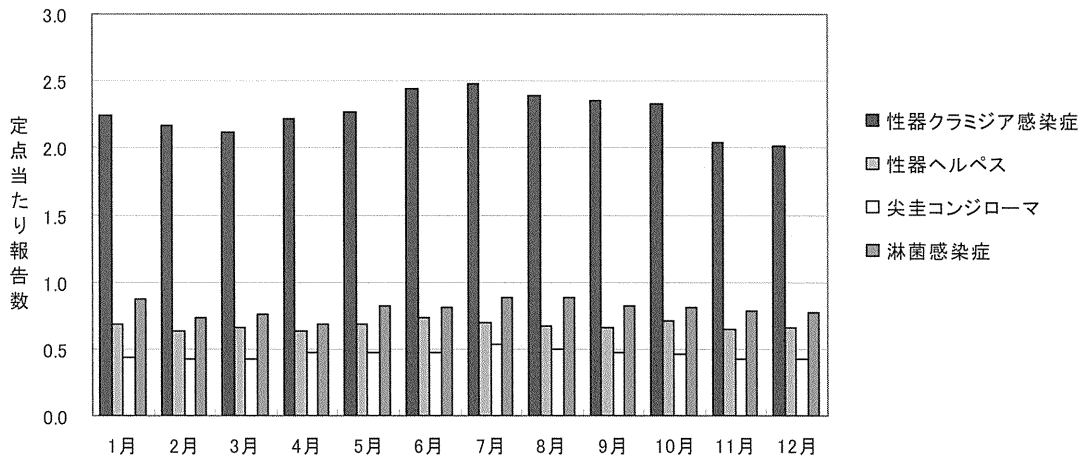
定点当たり報告数の女性/男性を表示



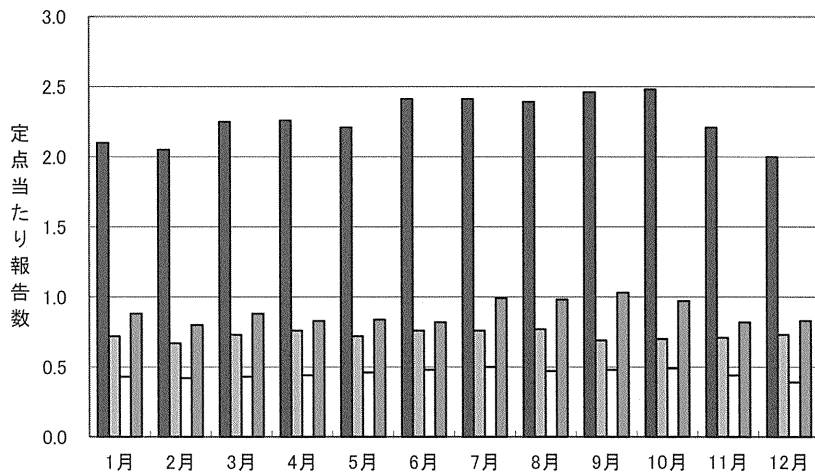
2012年1月13日現在

図7. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の月別定点当たり報告数(総数)(2009～2011年)

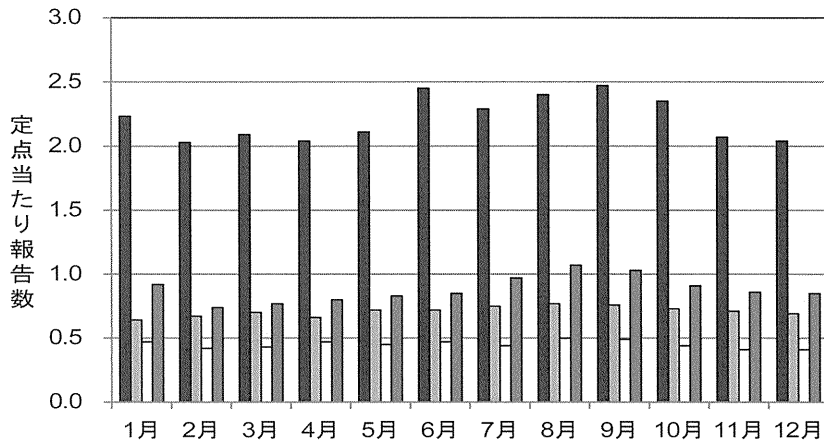
2009年



2010年



2011年



2009年、2010年は2011年1月14日現在、2011年は2012年1月13日現在

表1. 感染症発生動向調査における診療科別・月別 STD 定点数(2009～2011年)

2009年

	合計	産婦人科系	泌尿器科	皮膚科	性病科
1月	961	463	396	88	14
2月	955	462	392	87	14
3月	958	458	397	89	14
4月	947	450	397	86	14
5月	943	449	391	89	14
6月	953	454	398	87	14
7月	956	460	393	89	14
8月	953	458	395	86	14
9月	951	454	396	88	13
10月	949	454	393	88	14
11月	954	456	397	87	14
12月	960	461	398	88	13
平均	953	457	395	88	14

2010年1月15日現在

各月の集計時に報告した定点数による

一年間の平均では産婦人科系49%、泌尿器科41%、皮膚科9%、性病科1%

2010年

	合計	産婦人科系	泌尿器科	皮膚科	性病科
1月	960	461	398	88	13
2月	967	464	401	89	13
3月	961	461	398	89	13
4月	959	463	395	88	13
5月	955	460	395	87	13
6月	959	459	395	92	13
7月	958	460	395	90	13
8月	964	463	397	91	13
9月	959	458	399	89	13
10月	967	464	401	89	13
11月	967	463	401	90	13
12月	967	465	400	90	12
平均	962	462	398	89	13

2011年1月14日現在

各月の集計時に報告した定点数による

一年間の平均では産婦人科系49%、泌尿器科41%、皮膚科9%、性病科1%

2011年

	合計	産婦人科系	泌尿器科	皮膚科	性病科
1月	962	464	401	85	12
2月	963	464	400	87	12
3月	964	463	403	86	12
4月	957	463	395	86	13
5月	963	469	396	85	13
6月	966	469	400	84	13
7月	967	468	400	86	13
8月	967	469	399	86	13
9月	959	462	399	85	13
10月	958	462	400	83	13
11月	964	466	400	85	13
12月	962	464	401	84	13
平均	963	465	400	85	13

2012年1月13日現在

各月の集計時に報告した定点数による

一年間の平均では産婦人科系48%、泌尿器科42%、皮膚科9%、性病科1%

表2. 感染症発生動向調査における診療科別・都道府県別 STD 定点数(2011年12月)

	産婦人科系	泌尿器科	皮膚科	性病科	総計
北海道	20	19	2	1	42
青森県	5	6	2	0	13
岩手県	9	4	0	0	13
宮城県	9	9	0	0	18
秋田県	8	6	0	0	14
山形県	7	2	0	0	9
福島県	8	8	0	0	16
茨城県	12	7	0	3	22
栃木県	9	7	1	0	17
群馬県	13	9	1	0	23
埼玉県	31	20	4	0	55
千葉県	21	11	9	0	41
東京都	26	21	6	1	54
神奈川県	17	33	6	1	57
新潟県	6	7	2	0	15
富山県	5	4	1	0	10
石川県	4	5	1	0	10
福井県	2	3	0	0	5
山梨県	7	2	0	0	9
長野県	10	4	1	0	15
岐阜県	2	9	4	0	15
静岡県	18	10	2	0	30
愛知県	26	33	5	0	64
三重県	5	6	4	0	15
滋賀県	4	5	0	0	9
京都府	13	3	7	0	23
大阪府	26	26	8	4	64
兵庫県	24	21	1	0	46
奈良県	4	5	0	0	9
和歌山県	4	2	2	0	8
鳥取県	4	3	0	0	7
島根県	3	3	0	0	6
岡山県	14	3	0	0	17
広島県	7	15	1	0	23
山口県	6	4	2	0	12
徳島県	3	3	0	0	6
香川県	8	7	0	0	15
愛媛県	2	6	3	0	11
高知県	3	3	0	0	6
福岡県	20	13	4	0	37
佐賀県	4	3	0	0	7
長崎県	5	5	0	0	10
熊本県	6	7	0	0	13
大分県	5	3	1	1	10
宮崎県	6	4	2	1	13
鹿児島県	5	9	1	1	16
沖縄県	8	3	1	0	12
	464	401	84	13	962

2012年1月13日現在

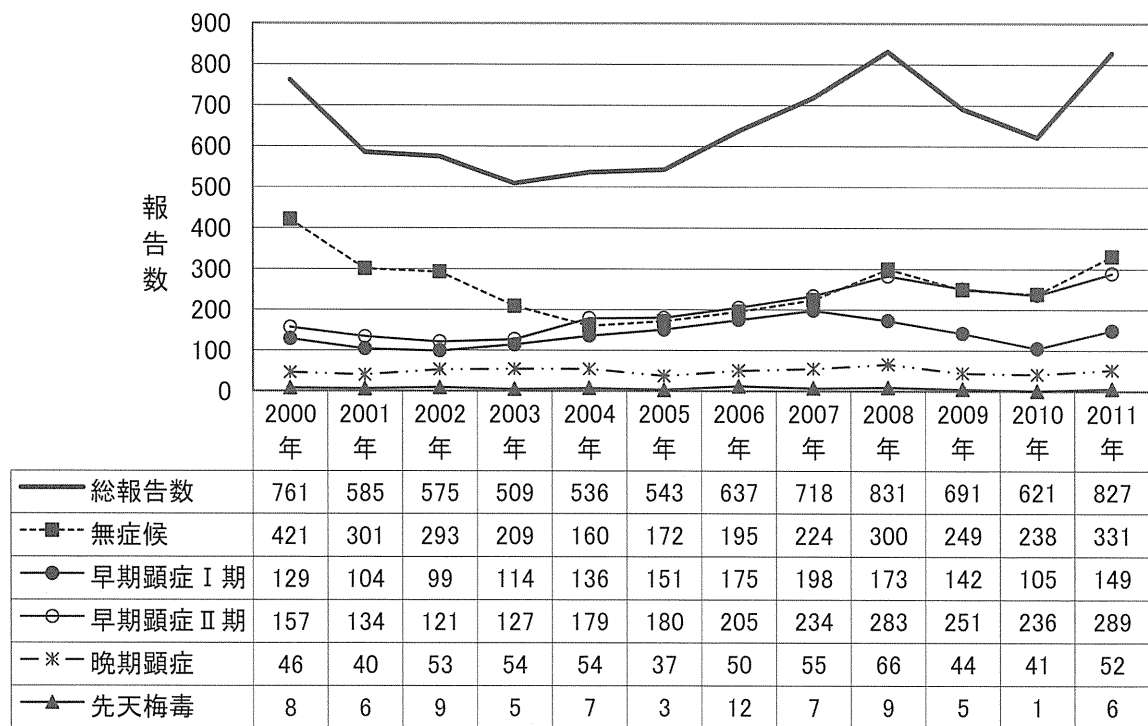
表3. 感染症発生動向調査における年別・都道府県別 STD 定点数(1999～2011年)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年 (12月)
全国	855	897	911	917	920	916	931	946	968	971	961	965	962
北海道	41	44	43	41	42	41	42	42	42	41	41	41	42
青森県	13	14	12	12	13	13	13	13	12	12	13	13	13
岩手県	12	13	13	13	13	13	13	13	13	14	15	14	13
宮城県	17	17	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	18
秋田県	11	14	14	14	14	14	13	14	14	14	13	14	14
山形県	10	10	9	10	10	10	10	10	10	9	10	10	9
福島県	16	16	16	16	16	16	16	21	20	16	16	16	16
茨城県	20	20	17	21	21	21	21	21	21	21	22	22	22
栃木県	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17
群馬県	24	25	24	25	25	25	25	26	26	26	26	24	23
埼玉県	36	47	51	50	50	50	52	53	55	55	55	55	55
千葉県	34	39	39	39	37	38	43	38	37	37	36	38	41
東京都	40	39	41	40	41	41	41	40	51	54	54	53	54
神奈川県	55	59	60	60	60	60	60	57	58	60	57	59	57
新潟県	19	19	19	19	19	20	17	15	15	14	15	15	15
富山県	6	7	7	7	7	7	7	10	10	10	10	10	10
石川県	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
福井県	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5
山梨県	5	5	6	6	6	6	6	8	9	8	9	9	9
長野県	14	15	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15
岐阜県	14	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	15	15
静岡県	29	30	31	30	30	29	30	29	30	30	30	30	30
愛知県	50	50	51	50	51	51	51	57	61	63	63	63	64
三重県	14	15	14	13	15	15	15	15	15	15	15	14	15
滋賀県	9	8	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9
京都府	23	23	22	21	22	22	22	22	22	22	22	22	23
大阪府	45	54	59	59	58	59	59	63	63	64	63	64	64
兵庫県	45	45	46	46	45	47	51	46	46	46	45	46	46
奈良県	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9
和歌山県	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	8	8
鳥取県	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	7
島根県	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
岡山県	16	17	17	15	17	17	16	21	22	20	18	18	17
広島県	28	25	23	27	26	27	27	22	23	23	23	22	23
山口県	11	11	12	12	12	12	12	10	11	12	12	12	12
徳島県	5	6	6	6	6	6	6	6	8	6	5	6	6
香川県	8	9	9	9	9	7	7	13	15	15	15	15	15
愛媛県	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
高知県	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
福岡県	16	24	34	37	37	31	38	37	38	38	36	36	37
佐賀県	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
長崎県	10	10	7	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10
熊本県	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
大分県	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
宮崎県	11	11	11	11	11	11	11	10	13	13	12	13	13
鹿児島県	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16
沖縄県	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

2012年1月13日現在

1999～2010年は各月に報告のあった定点数の平均(切り捨て)、2011年は2011年12月に報告のあった定点数を表示。

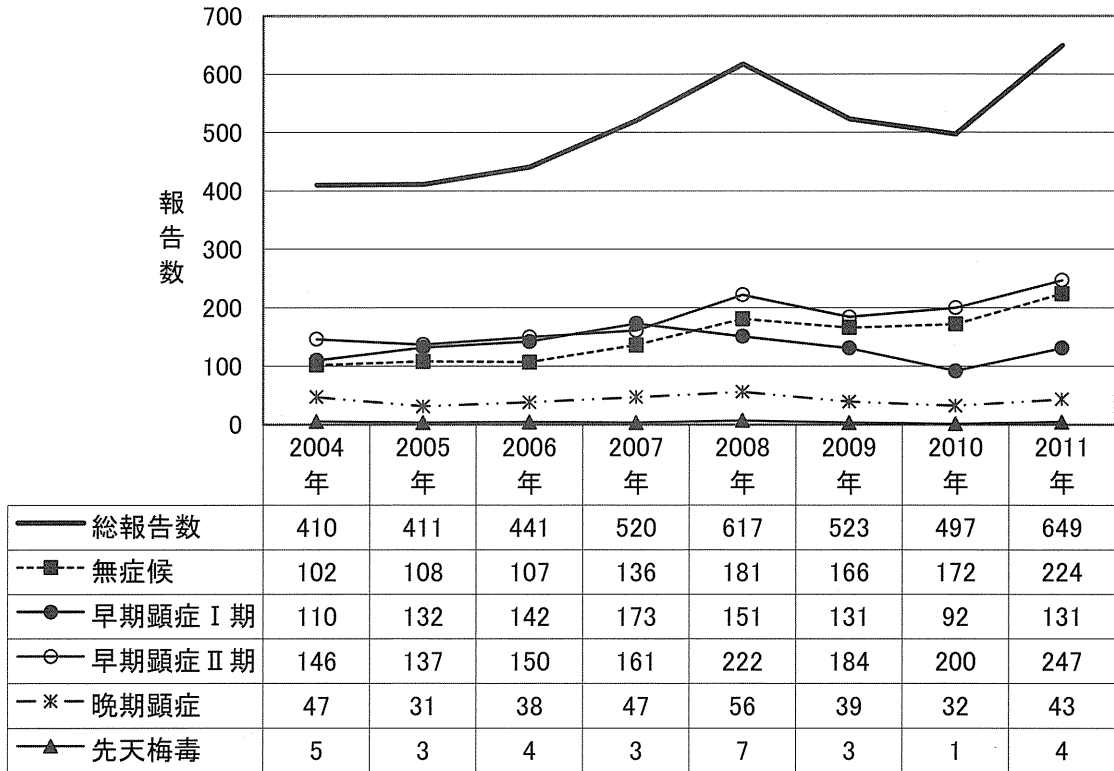
図8. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女総数)(2000～2011年)



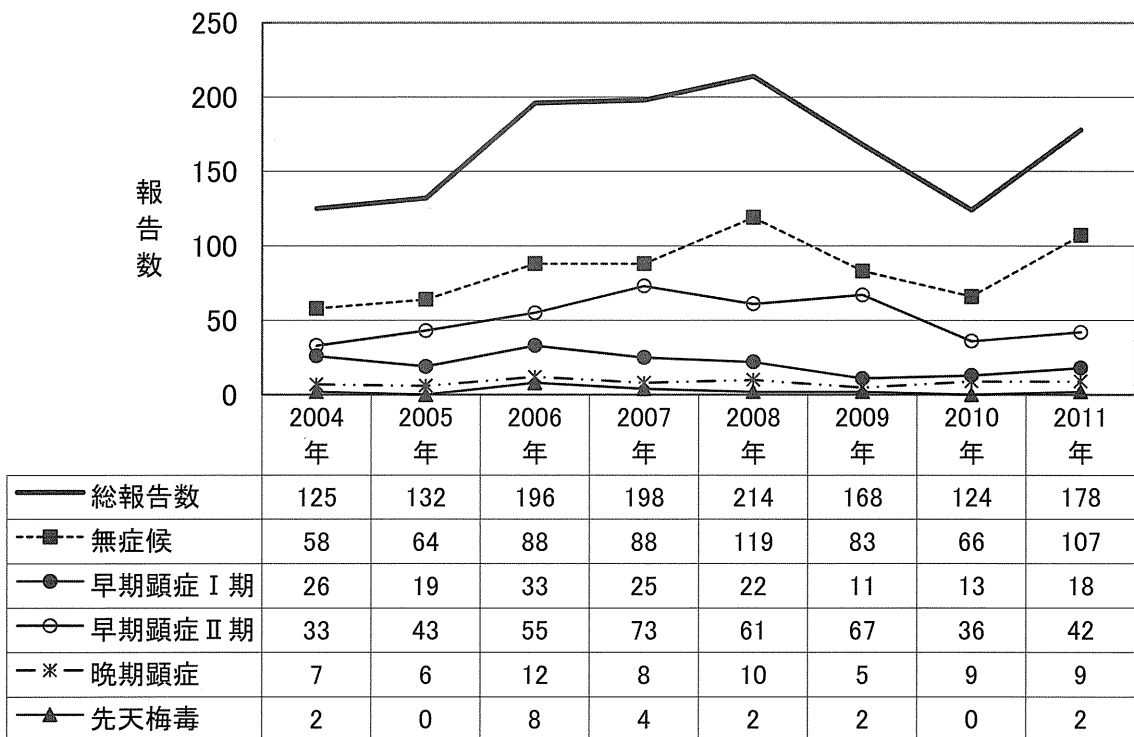
2012年3月3日現在

図9. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女別)(2004～2011年)

男性



女性

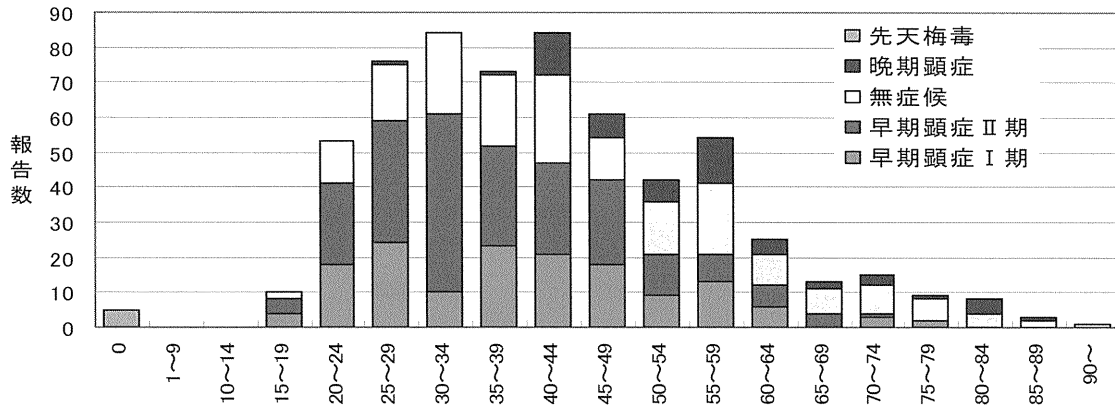


2012年3月3日現在

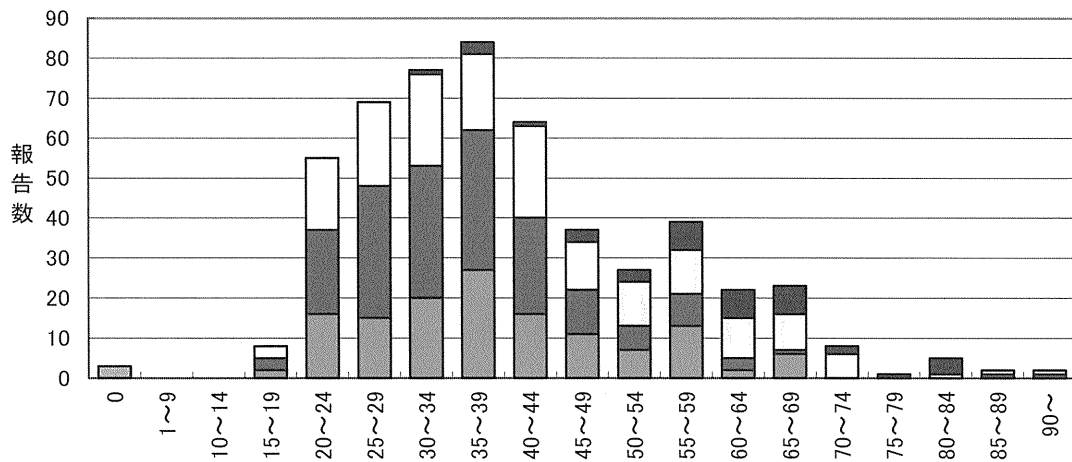
図10. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別病型分布 (2008～2010年)

男性

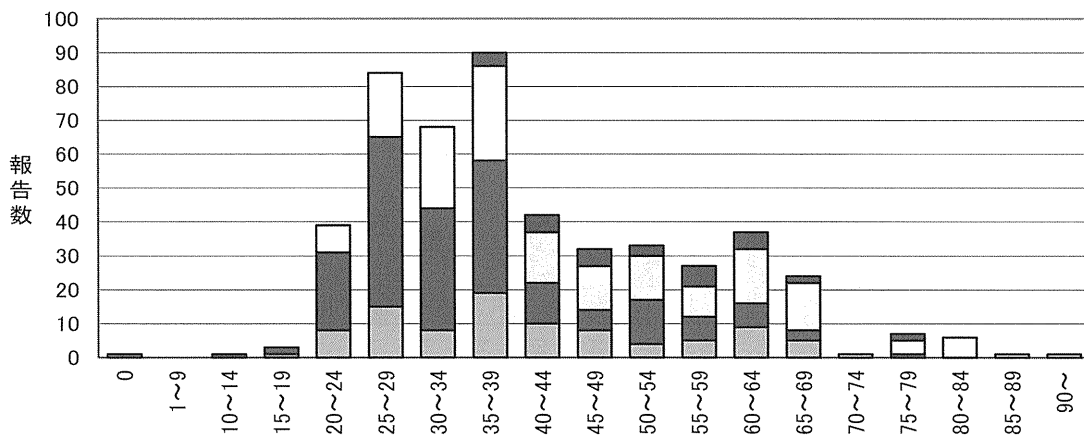
2008年 n=618



2009年 n=526

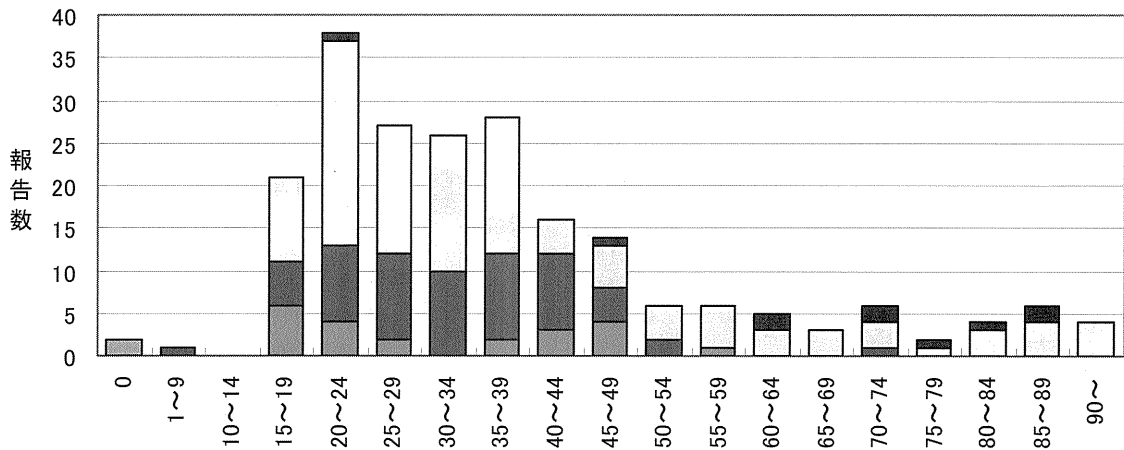


2010年 n=497

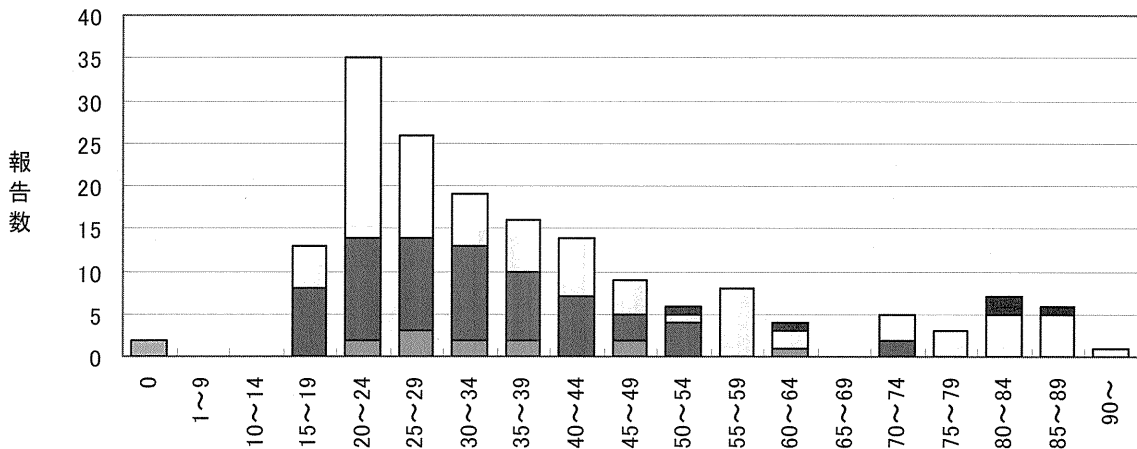


女性

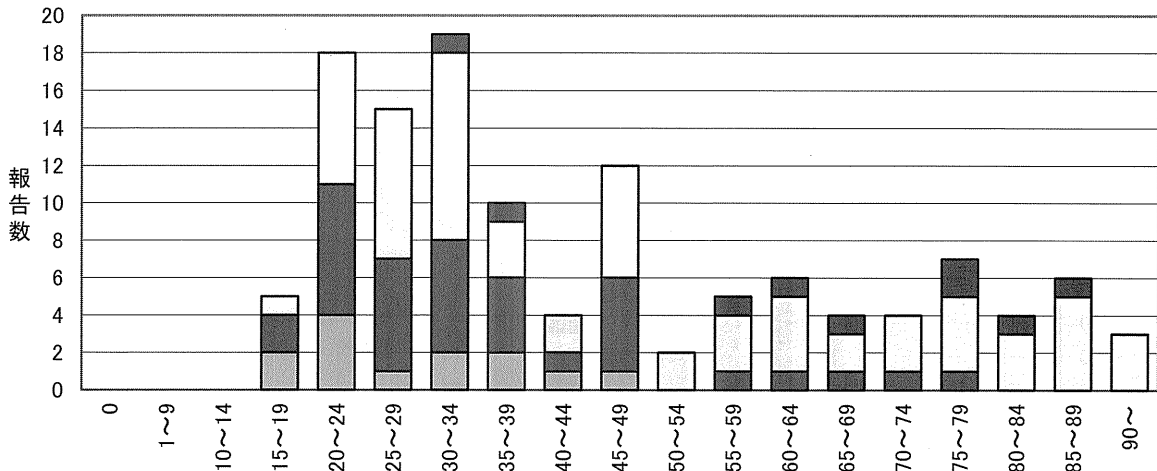
2008年 n=215



2009年 n=174



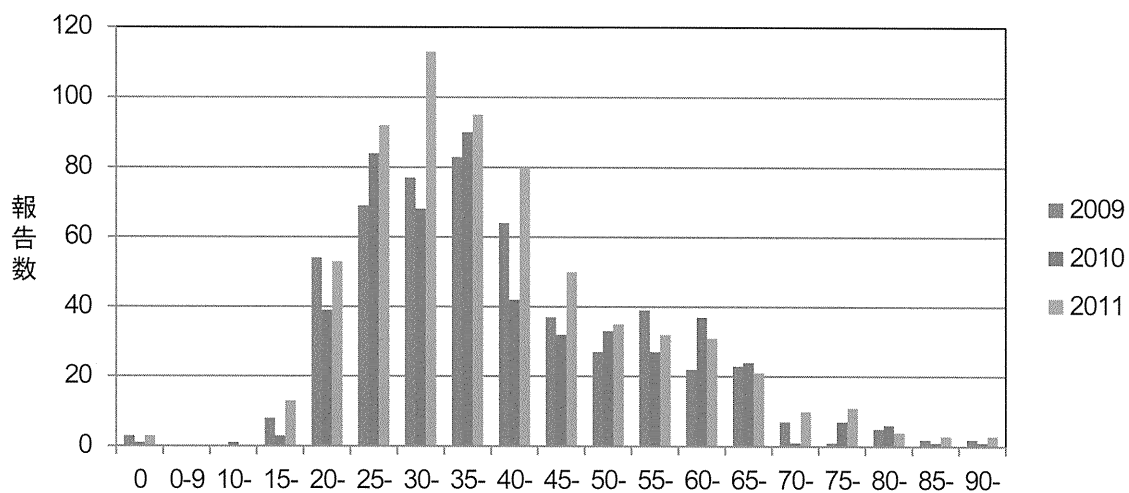
2010年 n=124



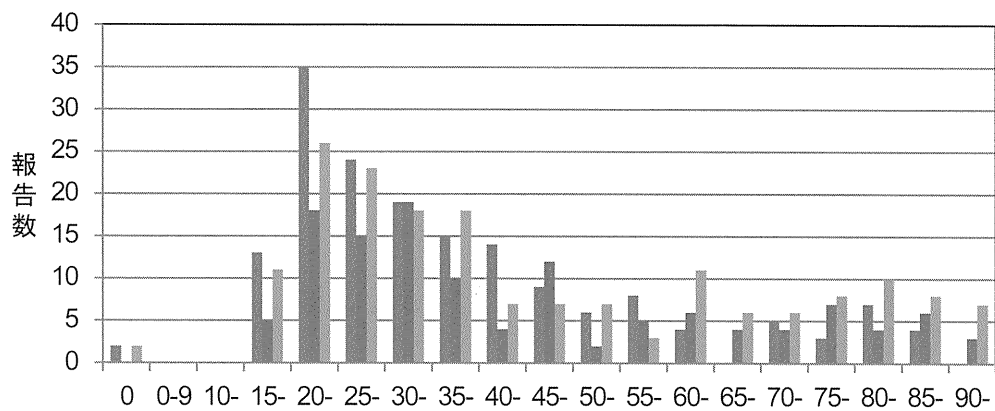
2008年は2010年2月25日現在、2009年は2011年2月26日現在、2010年は2012年3月3日現在

図11. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別報告数の年次推移 (2009～2011年)

男性 n=1669



女性 n=470

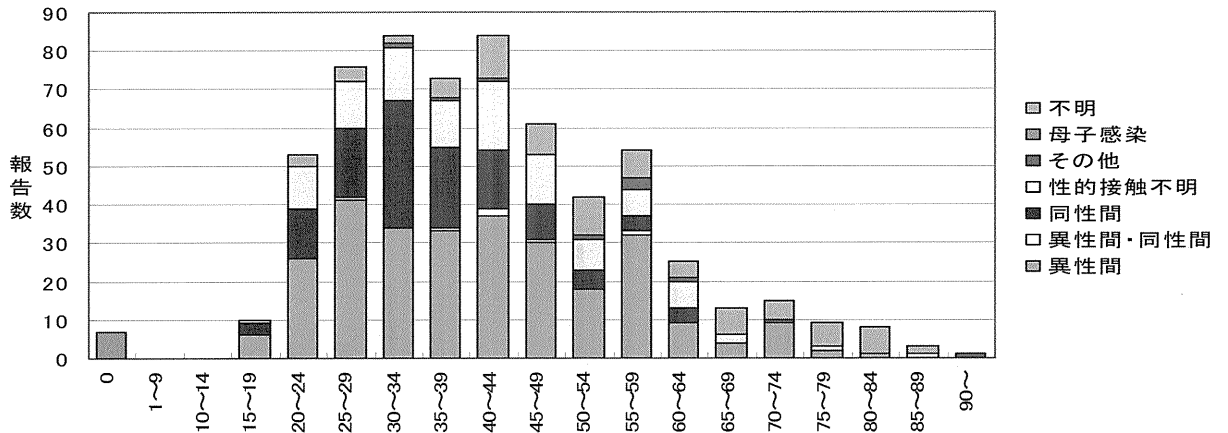


2012年3月3日現在

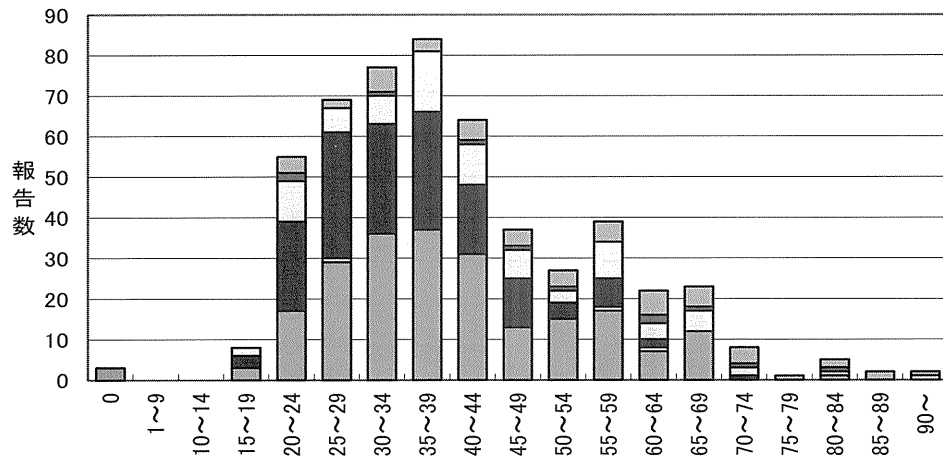
図12. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別感染経路分布(2008~2010年)

男性

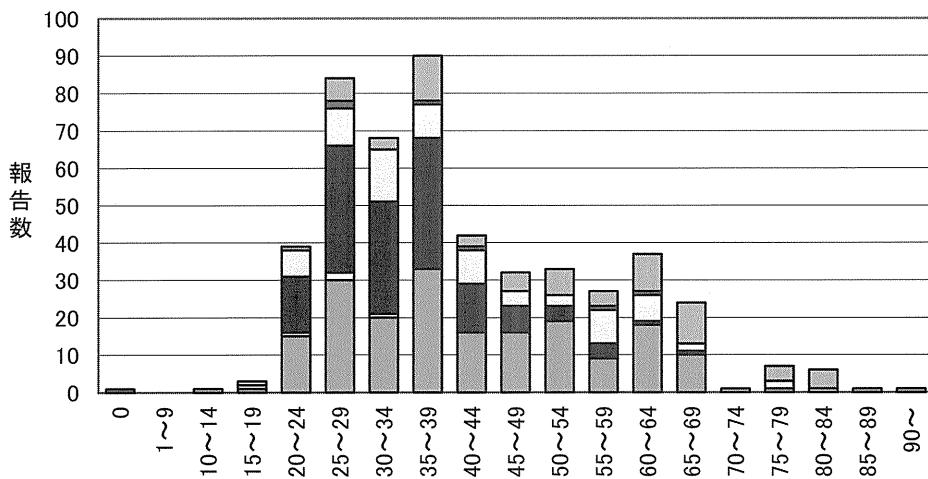
2008年 n=618



2009年 n=526

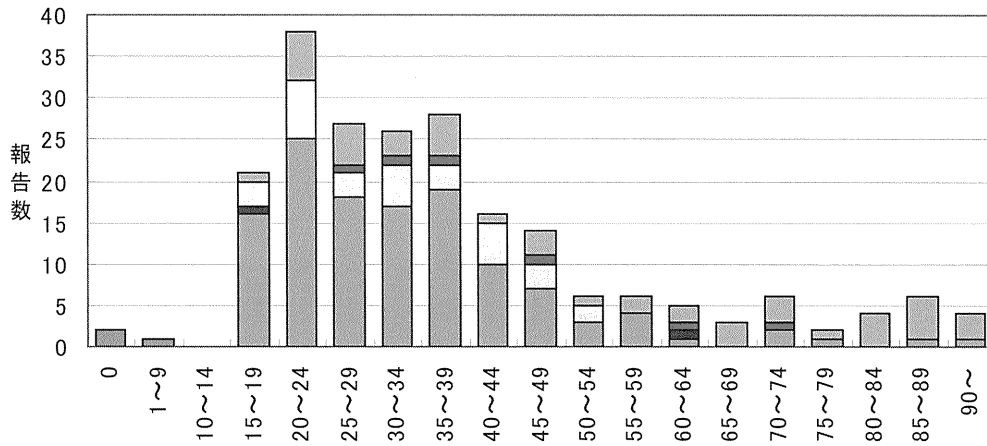


2010年 n=497

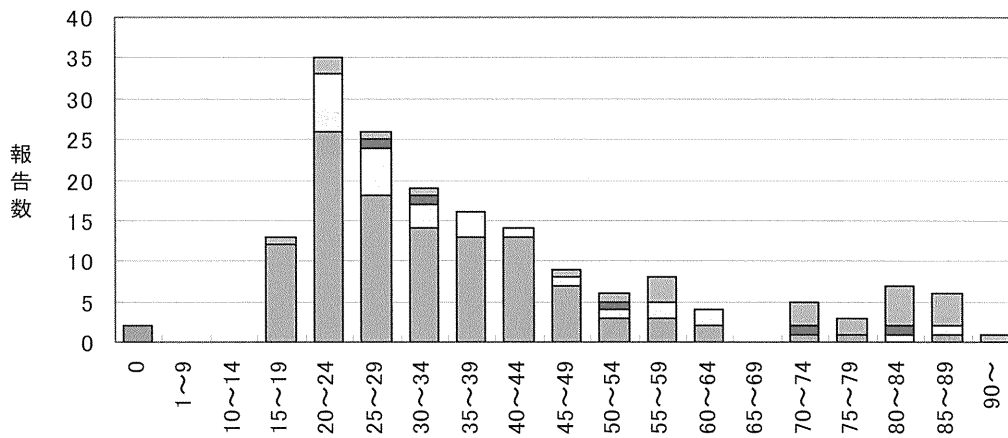


女性

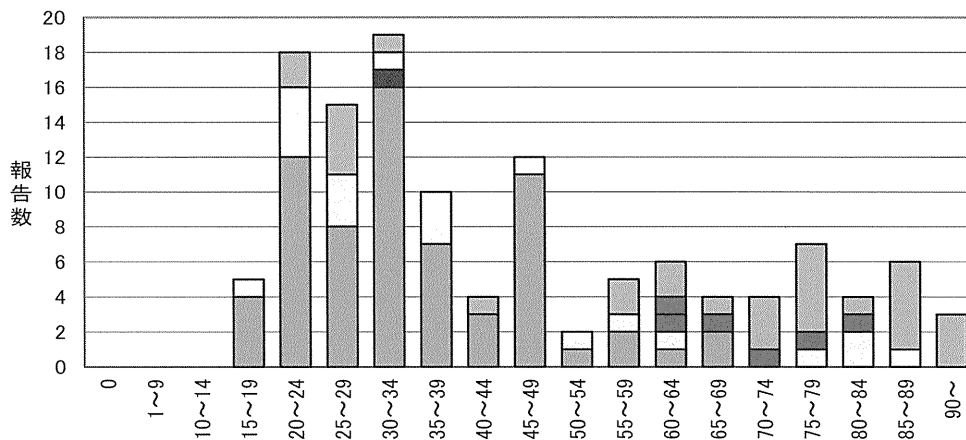
2008年 n=215



2009年 n=174

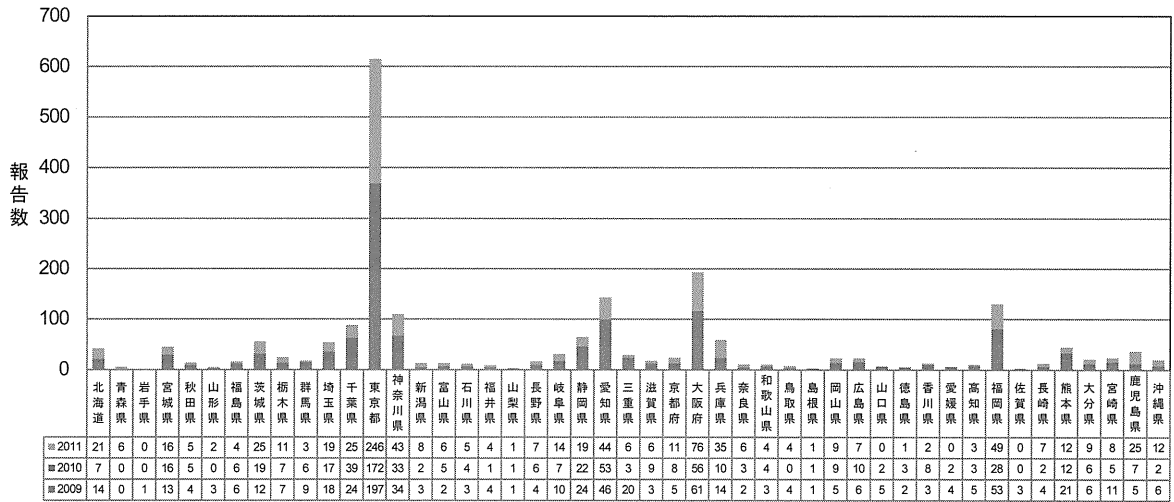


2010年 n=124



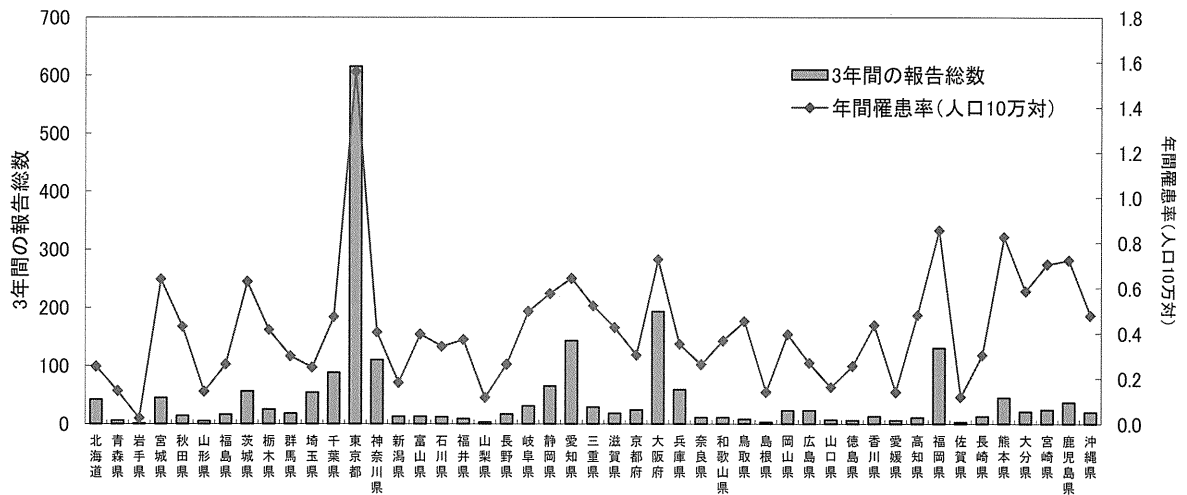
2008年は2010年2月25日現在、2009年は2011年2月26日現在、2010年は2012年3月3日現在

図13. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別・年別報告数(2009～2011年) n=2139



2012年3月3日現在

図14. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別報告数と罹患率(2009～2011年) n=2139



2012年3月3日現在

平成21-23年度厚生労働科学研究費(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)

「性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究」

総合分担研究報告書「性感染症の患者数全数把握の試み:2007-2011」

分担研究者 大日康史 国立感染症研究所感染症情報センター

岡部信彦 国立感染症研究所感染症情報センター

要旨

目的:本研究では、性感染症の実態を把握するために全数把握を行う。本稿ではこれまでの5年間に実施されてきた全数把握の状況を踏まえてまとめる。

方法:千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県の4県は6年間、岩手県、茨城県、徳島県は2007年からの5年間参加した。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症(初発あるいは初感染)、性器ヘルペスウイルス感染症(再発)、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症(発症者)、性器クラミジア感染症(妊婦健診)、咽頭クラミジア感染症とした。

結果と考察:発生動向と本研究の調査の傾向が最も一致していたのは性器クラミジア感染症で、次いで性器ヘルペスウイルス感染症であった。尖圭コンジローマに関しては発生動向調査は機能していないことが示された。

- A. 目的
- 性感染症の定点把握疾患に関しては、他の定点把握疾患以上に定点選択の困難さ、その代表性が問題視されている¹⁾。それを評価するためには実態を把握する必要がありその意味で全数把握が必要となる。本稿ではこれまでの実施されてきた全数把握の状況²⁾を踏まえて、2011年度を加えた5年間について検討する。

B. 方法

地域的には千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県、岩手県、茨城県、徳島県で、2007年から5年間を分析対象とする。2007年は11月に、2008年以降は9月に実施した。皮膚科・泌尿器科・産婦人科・性病科で以下の該当疾患に対して全数把握を行った。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）、性器ヘルペスウイルス感染症（再発）、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症（発症者）、性器クラミジア感染（妊婦健診）、咽頭クラミジア感染症とした。

全数把握疾患の梅毒、定点把握4疾患（淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症）の報告基準は感染症発生動向調査における各疾患の報告基準を準用した。

評価は5年間の疾患毎性別毎の人口10万対での報告件数を示す。また、発生動向調査に対象となっている5疾患に関しては、発生動向での報告数も人口10万対として比較する。

また、5年間一貫して協力いただいた医療機関のみを対象とした同様の分析を行い、参加

医療機関の増減に関する見かけ上の変化を除いた分析も行う。なお、2007年は医療機関名の記載の状況が悪かったために照合が悪かったことを考慮し、2008年以降の4年間の一貫して協力いただいた医療機関のみを対象とした同様の分析も行った。

C. 結果

表1には各県別の回収率の推移を示している。図1～10には疾患ごとに7県合計（5年分）、図11～80には各県別（5年分）を疾患ごとにまとめている。

また表2には、継続して協力いただいた医療機関の推移と5年間継続して協力いただいた最終的な医療機関数が示されている。5年間継続医療機関のみでの発生動向調査でも調べられている5疾患に関して、図81～85は7県計の、図86～120は県毎の結果を示している。また表3には、2008年以降の4年間において継続して回答した医療機関のみを集計した医療機関の推移を示している。図121～125は7県計での、図126～160は県毎での4年間継続医療機関の状況を示している。また5年間と4年間での比較を7県計のみで、